

# 「いっぽ」からひろがりつながる 外国人児童生徒教育

地域の  
特色ある  
活動

## 三重県松阪市教育委員会

### 1 はじめに

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、豊かな自然と歴史的な文化が色濃く残り、松阪牛や松阪茶等、全国的、世界的に評価されている産業が発展しています。

本市は、現在、市立小学校 36 校、中学校 11 校を有しており、時代の変化に的確に対応した教育を展開しています。

### 2 本市の教育方針

本市では、平成 19 年に策定した「松阪市教育ビジョン」の基本理念である「夢を育み未来を切り拓く 松阪の人づくり」に基づいて、学校教育において、さまざまな取組を進めています。

中でも、タブレット端末をはじめとする ICT 環境の整備を進め、主体的・協働的な学習や課題解決型学習を実施し、教育の情報化を推進しています。また、年々増加する外国人児童生徒の学校への適応支援を図りながら、多文化共生の視点に立った教育の充実を目指しています。

### 3 外国人児童生徒教育の取組

#### (1) 外国人児童生徒の状況

本市における外国人住民総数は、4289 人（平成 30 年 11 月 30 日現在）で、総人口の約 2.6% に相当します。中でもフィリピン国籍者が全体の約 57% を占めているのが本市の特徴です。

本市内の小中学校に在籍している外国籍児童生徒は、341 人（平成 30 年 9 月 1 日現在）です。その内、日本語指導が必要な児童生徒は、275 人（平成 30 年 9 月 1 日現在）で、

17 小学校・6 中学校に在籍しています。外国人児童生徒数は年々増加傾向にあり、一部の中学校区に集中しながらも、広域化傾向にあります。

#### (2) 初期適応支援教室「いっぽ」

本市では、平成 19 年 4 月に「松阪市外国人児童生徒の人権にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒教育の推進を図っています。その取組の一つに、外国人児童生徒のための初期適応支援教室「いっぽ」（以下「いっぽ」教室とする。）があります。

来日間もない、外国人の子供の学習や学校生活を支援する教室として、平成 19 年 5 月に「いっぽ」教室がスタートしました。対象となるのは、市内の小中学校に在籍する日本語指導が必要な外国人児童生徒です。「いっぽ」教室では、国籍も年齢も違う外国人児童生徒が、それぞれの文化を共有しながら一緒に机を並べて、「はじめての日本語」を学習しています。



また、少しでも早く日本の学校に慣れるよう、日本の学校生活や文化について学習する時間もあります。他にも、保護者の相談や連絡文書の各種翻訳など、市内の小中学校に通うすべての外国人児童生徒の学校生活を支え、現在、外国人児童生徒、保護者、学校をつなぐ重要な場所となっています。

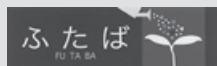
「いっぽ」教室では、ひらがな・カタカ

ナ・小学校低学年の漢字・簡単な会話等、4～6か月かけて習得します。「いっぽ」教室に通う子供たちは、来日時期や日本語力等、それぞれ異なるため、一人ひとりの実態に応じたきめ細やかな支援が必要となっています。そのため、「いっぽ」教室では、1対1の指導を基本としています。この支援体制を支えているのがボランティアスタッフです。ボランティアスタッフの方々は、子供たちの成長に喜びを感じ、毎日意欲的に日本語指導にあたっています。

「いっぽ」教室の開設により、不就学であった児童生徒が就学に至ったり、日本へ来たばかりの児童生徒が安心して日本の学校に通うことができたりする等、外国人児童生徒の就学を大きくサポートできるようになりました。

### (3) 就学前支援教室「ふたば」

「いっぽ」教室が小中学生を対象にしている



のに対して、本市では、外国人幼児（次年度小学校に入学予定の幼児）を対象に、就学前支援教室「ふたば」（以下「ふたば」教室とする。）を開設し、小学校生活への円滑な適応支援も行っています。初期の日本語の学習だけでなく、日本の小学校のルール、入学式や給食等の学校行事や学校生活についての情報を保護者に提供しています。参加する幼児の中には、未就園の子供たちもいて、「ふたば」教室で集団生活を経験することで、小学校生活をより円滑に始められるようになってきています。



### (4) 学校での取組

「いっぽ」教室を修了した児童生徒や各学校に在籍している外国人児童生徒の多くは、学習言語の不足から教科学習でつまづく傾向が見られます。こうした課題に対応するために、本市では、外国人児童生徒が特に多く在籍している学校（小学校6校、中学校2校）を指定校として、指導方法の工夫、教材の開発等の実践・研究を進めています。また、母語が話せる支援員を配置し、学習支援、適応支援、保護者との連絡、相談等の支援を図っています。

学習指導では、児童生徒一人ひとりに「個別の指導計画」を作成し、特別の教育課程で学ぶ国際教室と在籍学級が連携しながら、その子に応じた学習支援を行っています。また、日本語で各教科を学ぶ力をつけるために、JSLカリキュラムやリライト教材の研修も深めています。

さらに、多文化共生をテーマに学年や全校での集会を行い、アイデンティ



ティの確立をめざす取組にも力を入れています。ある小学校では、運動会の放送で一部タガログ語のアナウンスを行い、母国や母語に誇りをもち、自尊感情を高め、自信をもって自分を表現する姿が見られるようになってきています。

## 4 おわりに

日本語指導が必要な児童生徒にとって、来日してからの数か月間を「いっぽ」教室で学習することで、日本語の習得だけでなく、日本での学校生活に対する不安や悩みなどの解消につながり、学校での学習に意欲的に取り組むことができる児童生徒が増えてきています。市教育委員会、学校が連携を深め、取組を進めていくことで、ここ数年は進学を希望する生徒のほとんどが高校へ進学できるようになってきています。

さらに、大学に進学したり、地元の企業に正規社員として就職したりする生徒も出てきています。本市が推進する外国人児童生徒教育において、学力保障・進路保障の面でまだまだ課題はありますが、関係機関等と連携し、外国人児童生徒への支援の充実を図るとともに、すべての子供たちが互いの違いを認め合い、未来の松阪市で共に生きようとする態度を養っていききたいと思えます。



教育長  
中田 雅喜